

2019 vol. 22

# こころの未来

KOKORO RESEARCH CENTER  
KYOTO UNIVERSITY

特集

こころと持続可能性



## ごあいさつ

「持続可能性」とは、広井良典も本号で述べているように、近年重視されていると同時に、ほとんど言い古された言葉になっている。地球環境問題や経済システムの問題としては確かにそうであろうが、そこに「こころ」という要素を入れ込むと、新しい視点が生まれるであろう。前近代の世界観を考えてみると、それは死者があの世界に行っても、またこの世をお盆などに訪れることがあるように、こころとしても持続可能なものであった。しかしそれは同時に、死や祭りの時間による不連続や断絶を含むものであった。持続可能性を、単なる社会や経済にとっての概念ではなくて、こころにとってのものとして考えてゆけば、新たな豊かさの発見につながると思われる。研究者や研究組織としても、あまり確かな将来の保証がないなかで短期の課題や成果に追われている現状から、持続可能性の大切さを考えさせられるかもしれない。

2019年12月

京都大学こころの未来研究センター長 河合俊雄

こころの未来  
KOKORO RESEARCH CENTER  
KYOTO UNIVERSITY

2019 vol. 22

目次

ごあいさつ	河合俊雄
01 巻頭言 持続可能は人間社会の難問	月尾嘉男
〈特集 こころと持続可能性〉	
02 「持続可能性」と「こころ」の接点	広井良典
04 田中朋清氏インタビュー 鎮守の森とSDGs —— 日本人と持続可能性	田中朋清+広井良典
11 平野彰秀氏インタビュー 持続可能性とローカル・コミュニティ	平野彰秀+広井良典
論考	
18 成長経済から持続的社會へ	佐伯啓思
22 レジリエンスと持続可能性	藤田裕之
26 自分で創るデイサービス —— 園芸療法の新しい活用	浅野房世
30 森林療法とはなにか	上原 巖
34 存在の不安、地面についての世界の変容 —— エコロジカルな危機の時代における場所をめぐって	篠原雅武
38 芸術の持続可能性	吉岡 洋
一般公募プロジェクト	
42 日本における“うつ病”の説明モデル —— 新聞記事データベースの内容分析による文化的産物 (Cultural Products)の検討	Andrew Ryder + 春原桃佳
43 一般公募プロジェクト・アブストラクト	
44 Interpersonal Emotion Regulation in Couples: Cultural Differences and Similarities	Michael Boiger
45 Emotions and Motivation Following Feedback about Natural Talent or Hard Work	Christina Brown
46 Tibetan Nitiśāstras in Bhutan: Ethical and Political Philosophy	Miguel Álvarez Ortega
47 2018年度仕事一覧	
57 センターの主な動向 (2018年10月～2019年3月)	
編集後記	

---

## 編集後記

「持続可能性」とは、決して単に“量的な時間の長さ”を意味するのではない。また、資源の有限性や経済社会に関わる“外面的”な話題にとどまるのでもない。まさに「こころ」という視点からのアプローチが求められているのではないだろうか。(広井良典)

「持続」については考えてきたけど、「持続可能性」については考えたことがなく、新鮮な経験でした。(吉岡 洋)

現在スタンフォード大学に在籍し、社会学者たちと日々討議している。持続可能性は巨大な消費社会である北米では切実な問題と捉えられている。一方で日々の生活の中ではそうした意識を感じる機会が少ない。日本の地域からの事例発信は重要であろう。(内田由紀子)

持続可能性という言葉、これまでうまく咀嚼できずにいた。やむを得ずの現状維持、という少々ネガティブなニュアンスで勝手に解釈していたからである。本特集号に携わることによって、私のこの浅薄な考えは一新された。自らの不明を恥じるばかりである。(阿部修士)

本誌の論考を読むと、今日、私たちは何千年単位の文明的な転機に立っていて、ここで私たちがどう振る舞うかで地球や人類の持続可能性が決まるのだらうと思えてくる。その出発点はひとりひとりのこころの持ち様と暮らし方。自分なりの実践を考えたい。(原 章)

---



京都大学 KOKORO RESEARCH CENTER · KYOTO UNIVERSITY

こころの未来研究センター

